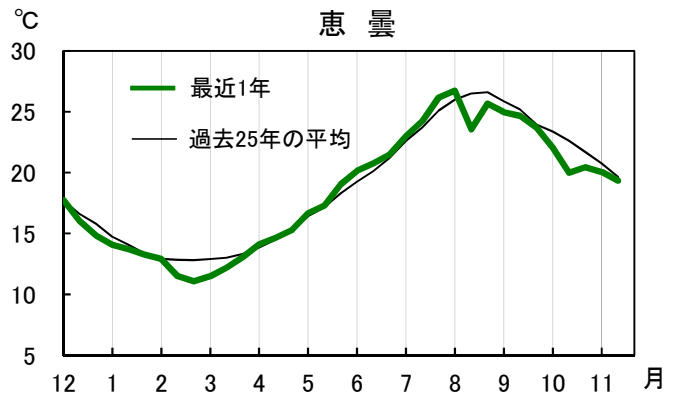
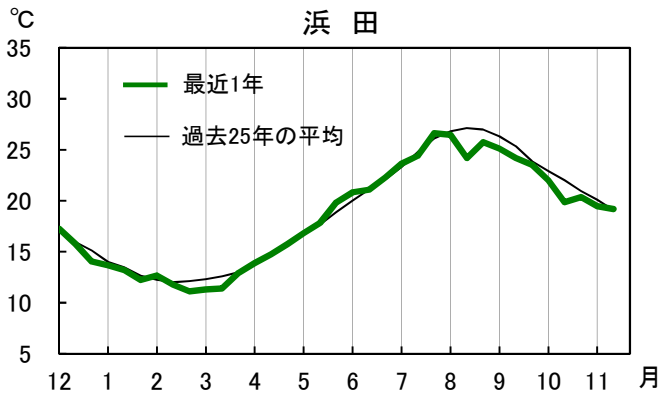




## 《10～11月の海況》

10月	月平均	平年差	評価
浜田	20.7℃	-1.2℃	かなり低め
恵曇	20.9℃	-1.6℃	はなはだ低め

10月の沿岸定地水温は、浜田地区では「やや低め」であった上旬から、中旬は「はなはだ低め」に急転し、下旬は再び「やや低め」となりました。一方、恵曇地区では、上旬は「かなり低め」、中・下旬は「はなはだ低め」となりました。11月に入り、両地区とも上旬は「やや低め」、中旬は「平年並み」で経過しています。



## 《10月の漁況》

## 【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年並みとなりました。マアジは平年の4割でしたが、サバ類は1.4倍、その他の魚種は概ね平年並みか平年を上回りました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、ブリ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量はそれぞれ平年を下回りました。この時期主体となるマアジはそれぞれ平年の1.7倍でしたが、近年漁獲量が増加していたマイワシが全く漁獲されなかったため、平年を下回る結果となりました。

## 【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）では、スルメイカ（全体の55.1%）とケンサキイカ（同44.4%）が主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は251kgで平年を下回りました。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではソデイカ（全体の65.9%）とケンサキイカ（同33.9%）が主体の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は79kgで平年を下回りました。両地区とも近年この時期の漁獲の主体となっていたケンサキイカの漁獲量は、平年の1～2割程度に止まりました。

## 【沖合底びき網漁業】

浜田港ではムシガレイ、キダイ主体の漁獲でした。台風等の影響により1統1航海当り漁獲量は10.1トンで、平年（過去10年平均）の7割の水揚げに留まりました。キダイは前月に引き続き好調で平年の1.5倍の水揚げがありました。またソウハチも好調に推移し、平年の3.6倍の水揚げがありました。一方、ムシガレイ、アナゴ類、アンコウは低調で平年の6～7割の水揚げに留まりました。

## 【小型底びき網漁業】

和江地区ではソウハチ、アナゴ類主体、久手地区ではニギス主体の漁況でした。1隻1航海当りの漁獲量は、両地区とも平年並み水揚げとなりました。両地区でソウハチが好調に推移し、平年の1.9～2.2倍の水揚げとなりました。また、和江地区ではアナゴ類、アンコウ、ニギス、スルメイカが、久手地区ではスルメイカが平年の1.6～2.2倍の水揚げがありました。一方、キダイはやや低調で、和江地区では平年の8割、久手地区では平年の2割の水揚げに留まりました。

## 【定置網漁業】

石見地区ではサワラ類、カマス主体の漁況で、1統当りではサワラ類が平年の2.4倍、カマスが5.9倍だったものの、この時期主体となるマアジが平年の3割、ブリが2割だったため、全統の総漁獲量は平年を下回りました。出雲地区ではマアジ、サワラ類、ブリ主体の漁況で、1統当りではマアジが平年の3.3倍、サワラ類が3.4倍、カマス、マダイ、ヒラマサ等も概ね平年並みか平年を上回ったため、全統の総漁獲量は平年を上回りました。隠岐地区ではブリ主体の漁況で、1統当りではブリ及びシイラ、カンパチ、ヒラマサ等が概ね平年並みだったものの、この時期主体となるサバ類が平年の2割、カワハギ類が3割となったため、全統の総漁獲量は平年を下回りました。

## 【釣・縄】

出雲地区ではブリ、マダイ、アマダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は20kgで平年を下回りました。石見地区ではブリ、ヒラマサ、ケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は18kgで平年を下回りました。隠岐地区ではソデイカ、マダイ、カサゴ・メバル類が主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は21kgで平年を下回りました。

【平成 26 年 10 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、サバ類	257トン	111%	53%	13.5トン	157%	85%	○
	西郷	マアジ、ブリ	5,138トン	45%	52%	65.0トン	44%	57%	▲
	浦郷	マアジ	3,313トン	62%	76%	54.3トン	63%	72%	▲
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ、ケンサキイカ	67トン	37%	24%	251kg	83%	72%	▲
	西郷	ソデイカ、ケンサキイカ	8トン	12%	26%	79kg	12%	29%	▲
沖合 底びき網	浜田	ムシガレイ、キダイ	303トン	95%	84%	10.1トン	80%	74%	▲
小型 底びき網	久手	ニギス	171トン	87%	76%	788kg	89%	97%	○
	和江	ソウハチ、アナゴ類	274トン	83%	79%	791kg	99%	96%	○
定置網 (大型)	浜田	サワラ類	4トン	37%	11%	1.2トン	61%	90%	○
	美保関	サワラ類、マアジ、カマス	216トン	249%	149%	2.5トン	220%	163%	◎
	浦郷	イサキ、ウルメイワシ、マアジ、ブリ	26トン	47%	68%	913kg	51%	70%	▲
釣り・縄	仁摩	ヒラマサ、メダイ、ケンサキイカ	8トン	69%	29%	25kg	68%	46%	▲
	大社	ブリ、イサキ、カサゴ・メバル類	8トン	76%	57%	25kg	84%	79%	▲
	西郷	ソデイカ	10トン	52%	41%	27kg	118%	83%	○

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした。

# 【ケンサキイカ情報】

発行日：平成26年11月26日

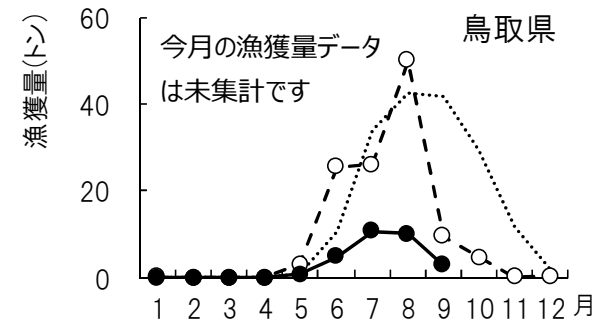
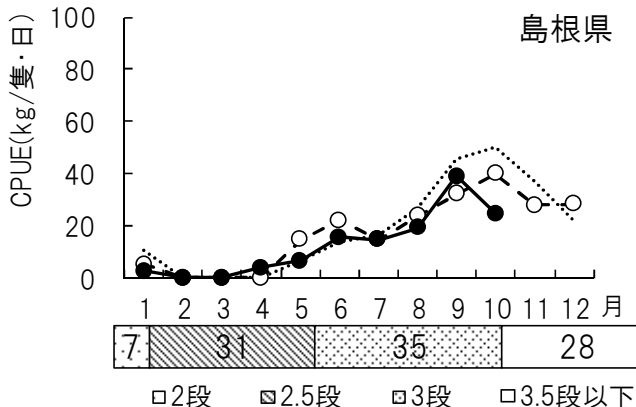
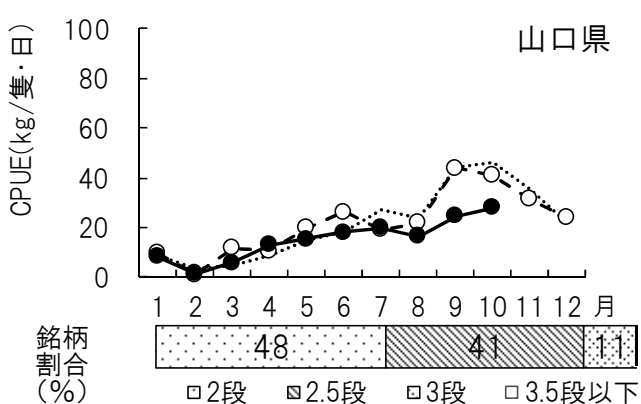
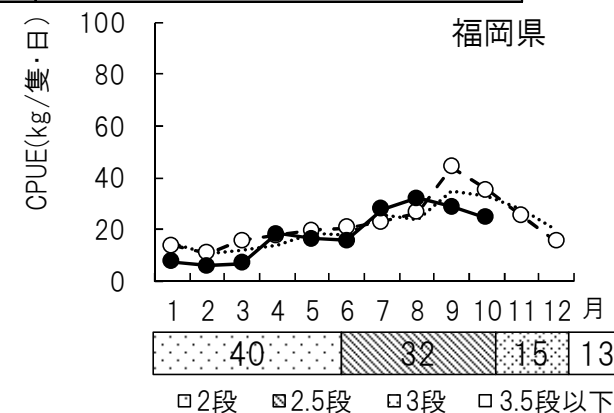
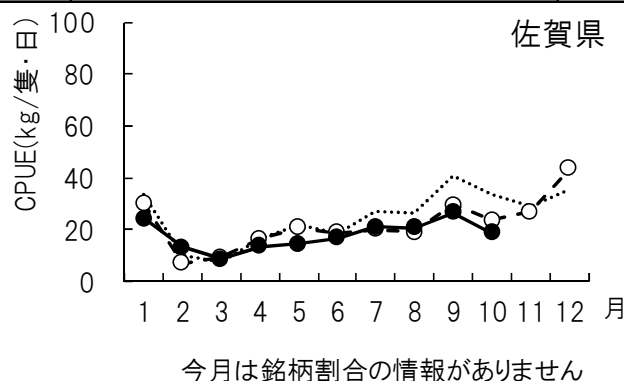
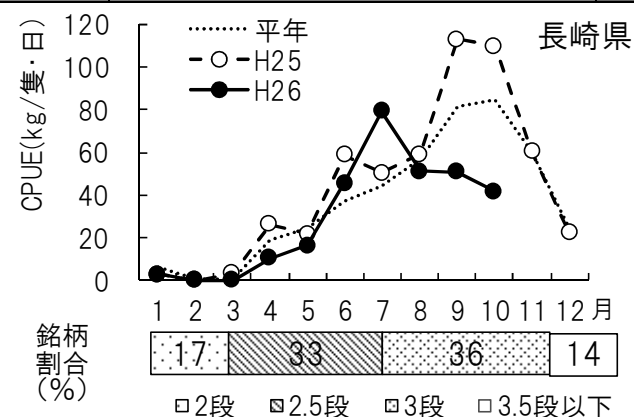
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

## I：10月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

漁獲量でみると、前月に引き続き、各県とも軒並み低調のようです。

長崎県	漁獲量は前年・平年を大きく下回りました。(前年比36%、平年比28%)	佐賀県	標本港の漁獲量は前年を上回り、平年を下回りました(前年比114%、平年比46%)。	福岡県	代表港の10月のCPUEは平年を下回り、漁獲量は前年比103%、平年比73%と不漁でした。また1～10月の累積漁獲量は前年比76%、平年比74%と9月に引き続き低調に推移しています。
山口県	代表港の漁獲量は前年・平年を大きく下回りました(前年比42%、平年比21%)。	島根県	主要7港の水揚量は40トンで、前年・平年を大きく下回りました(前年比16%、平年比9%)。	鳥取県	10月の漁獲量は集計中ですが、9月までの漁獲量は前年及び平年の値を大きく下回りました(前年比26%、平年比23%)。



※平年は過去5年(H21～H25)の平均値

Ⅱ：11月上旬の底層水温

長崎県	底層水温は17-20℃台で平年並みでした。	佐賀県	壱岐水道は21.3～21.7℃で平年よりやや高め、対馬東水道は15.6～20.8℃で平年よりやや高めでした。	福岡県	沿岸域は20～21℃台で平年並みからやや高め、沖合域は18～22℃台で平年並みからかなり高めとなっています。
山口県	底層水温は3℃～21℃台で、冷水域を除き平年並み～やや高めでした。	島根県	水深200m以浅では、温泉津沖は2～13℃で、沿岸寄りは「かなり高め」、沖合寄り「かなり低め」でした。高山沖は3～21℃で、「平年並み～やや高め」で一部「かなり低め」の海域が広がっています。	鳥取県	隠岐諸島周辺海域及び鳥取県沿岸域の水深100mの海域の水温は16℃前後でした。先月同様、隠岐諸島西側の海域では島根沖冷水の張りだしが強い傾向にあります。

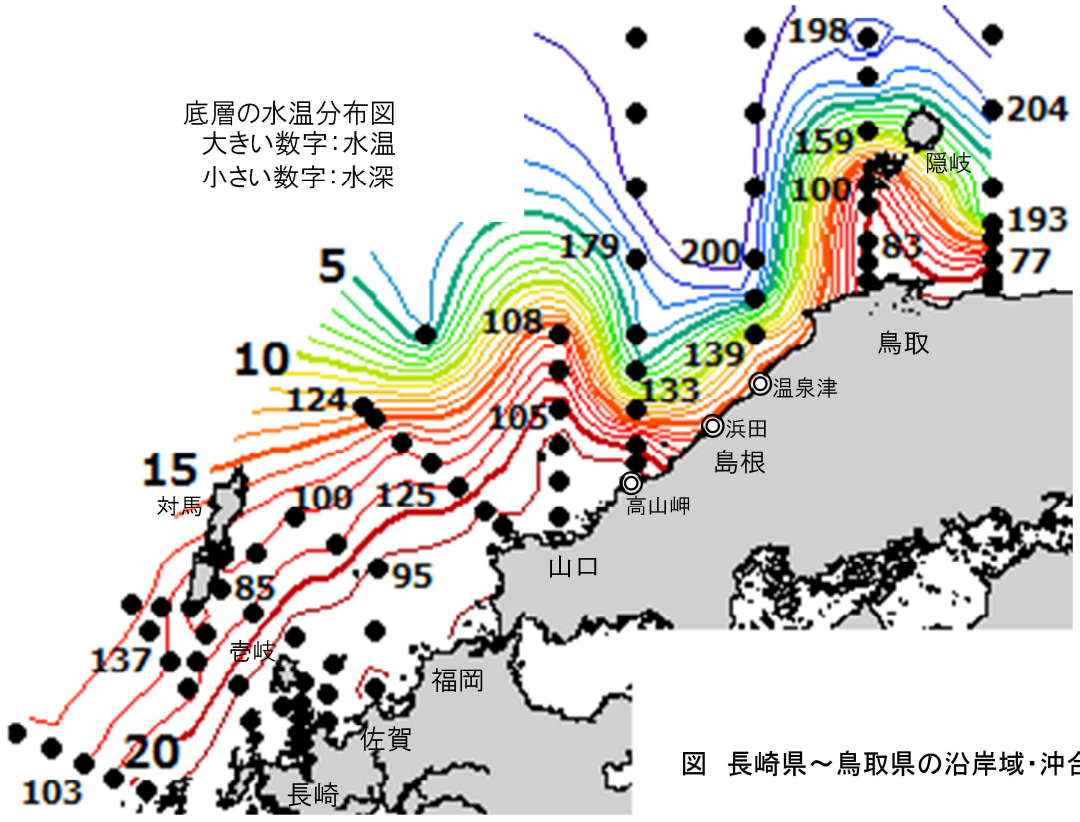


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図